

7	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17100007	異種移植に関する基礎的研究	高尾 尊身 (鹿児島大学・フロンティアサイエンス研究推進センター・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>最大の目標であるα-1,3-ガラクトース転移酵素ノックアウト(αGalT)KO ミニブタが作成されておらず、さらに、この(αGalT)KO ミニブタからダブル KO ブタの作成をする必要があり、当初の計画よりも研究の進捗が遅れている。既に欧米では、(αGalT)KO の作成、さらに、これをドナーとした異種移植論文は多数発表されている。培養系ではあるがブタ内在性レトロウイルスがヒト細胞に感染することを示し、その感染抑制に抗エイズ薬 AZT が有効であることを見出した。しかし、抗エイズ薬 AZT の投与が必要な異種臓器移植は臨床上意味のある治療法となるのか疑問である。</p> <p>わが国での移植ドナー数は遅々として増えず、移植用臓器の確保は急務である。わが国の移植医療がおかれた特殊性もあり、(αGalT)KO ミニブタを急ぐとともに、ブタ内在性レトロウイルスがヒト細胞への感染がもつ臨床上の問題点を明確にする必要がある。今後、なお一層の努力を期待したい。</p>				
8	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17100008	コンピュータ外科における次世代エンドエフェクタ及びナビゲーションシステムの開発	土肥 健純 (東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、(1) 立体像と三次元超音波を用いた IV 表示システム、(2) 内視鏡下外科手術のための可変視野内視鏡、(3) 体内深部治療における局所 MRI のための小型 RF コイル、(4) 心拍動下心臓外科手術支援画像観察デバイス・クリッピングデバイス、(5) 多自由度屈曲鉗子マニピュレータ、などのコンピュータ支援外科デバイスの開発を進めているが、所期の成果をあげつつある。</p> <p>また、脳神経外科、心臓血管外科、胎児外科を対象としており、それぞれの分野でイメージングおよびマニピュレーション技術が大きく異なるので、チャレンジングといえる。国際的な競合も多い分野であるので、それぞれのサブテーマについて優位性を明らかにしながら研究開発を進めて欲しい。エンドエフェクタの一層の高度化も必要な課題であろう。</p>				